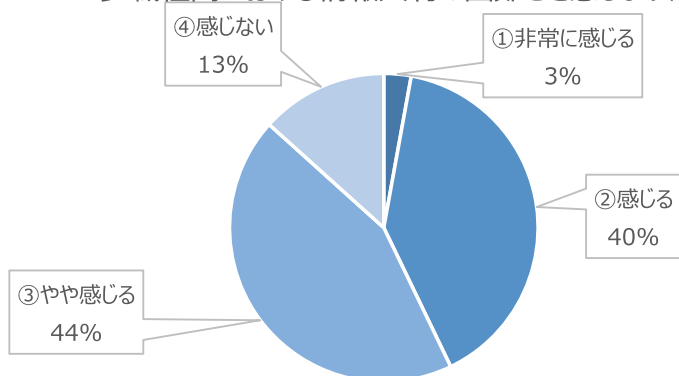
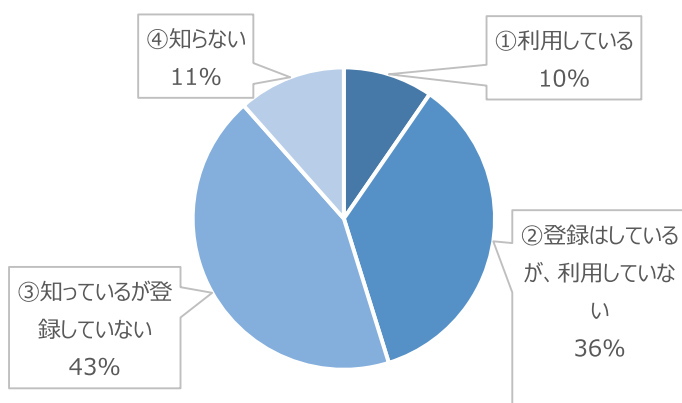


第5回多職種連携研修会 事前調査集計表 H29.8月

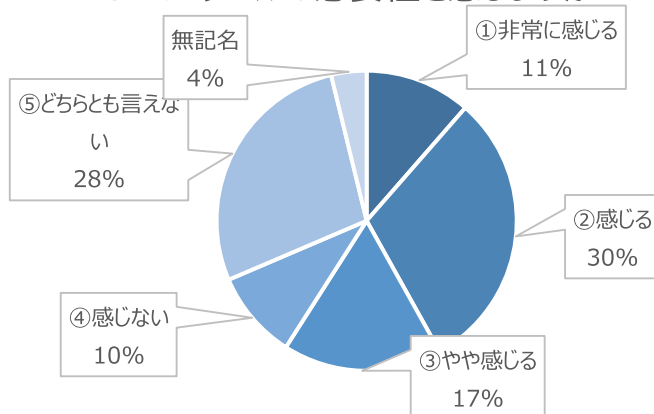
1. 多職種間における情報共有の困難さを感じますか？



2. はち丸ネットワークを利用したことがありますか？



3. ICTツールの必要性を感じますか？



事前調査〔多職種間での情報共有に関するアンケート〕集計結果

※掲載内容は全て原文ママ

設問1. 現在、多職種間での情報共有において困難さを感じることはありますか？該当する選択肢に○印を付けてください。

①②③を選択された方へ：特にどんな場面で困難さを感じるか教えてください。

- 面識のない相手だと、どの程度理解してもらっているかわかりづらい。電話だと特に。
- どういった職種の方が、何曜日の何時に入っているかよくわからない。バッティングするとバタバタしてしまう。
- 多職種が持っている情報（例えばカルテの内容）はそこでしか分からない。
- やはり連絡方法と時間帯です。メール等、気軽にできると良い。
- 連絡を取るも担当が不在、内容によって連絡を誰に取れば良いか不明。
- 目標が徹底されていないことが多く、意思の疎通が図れていないことが散見され、情報共有以前のことが多い。
- 郵送では事務手続きが煩雑となるし、TELでは相手の都合がわからない。
- 連絡方法が明確でない。
- 共通言語がない。特に介護職の使用方法について困難さを感じる。
- 患者情報が、特に保険証の確認がし辛い。どこかにアクセスしてわかるとありがたい。
- 情報収集やフィードバックは、話さないと伝えきれない内容がある。相手の忙しさがわかるため、手間を取らせることのためらいがある。特に相手が医師の場合、連絡の取り方、面会の可否等、人により確固たる違いがあり、気軽に連絡をとりづらい。
- TELで診察中、どちらも忙しく、すぐに対処が難しい。
- 電話で連絡・問い合わせしたいことがあっても、担当の方となかなか繋がらない。
- 皆さん、事務所不在にしていることが多く、電話連絡がなかなか繋がらない。
- 例に挙がっている2点は、その通りであり、手間を感じている。返信をくれないところもあり、再度、連絡することもある。
- 電話連絡は相手の都合がわからない。FAX送付しても返信ない場合、一方的なやり取りになってしまう。
- 電話で連絡がある場合、その場で聞いても患者さんの前では出られない事もあり、出ても忘れてしまう。今は、FAXを送ってもらおうようにしています。
- 共通の情報ツールがないため。
- 電話連絡しても、事業所内で情報共有されておらず、伝わっていない。FAXをしても返信がなく、欲しい情報が得られない。
- 病院へ情報をFAXしましたが、個人病院だと「手渡しするのが当たり前だ」と言われ、数回足を運んだことがありました。情報を医師にFAXするというのはやはり失礼なのでしょうか・・・
- 電話連絡は先方と繋がらないことがある。
- 訪問リハ、訪問看護の方からの福祉用具の提案の意図がケアマネージャーを通すと不明確になるケースがある。
- すぐに状況を確認したい時に担当者が不在で詳細が分からない。
- 現場に出ていると、すぐに担当者と連絡がつかない。
- 電話での連絡が難しいと思う。（病院や医師へ）まさにこの2点（例に挙がっている2点）は、手間がかかり大変だと感じている。
- サービス事業所間等の情報共有に時間を要する。

- 必要な時に担当者が見つからない。ENTカンファや家族の思いについてケアマネから情報が来ない。
- 現場職員が正確な情報を得られず、独自の判断で対応しているのを見かけます。
- FAXではニュアンスが伝わらないため。TELしても不在が多い。ケア中だったりする。
- Drとの連携
- 電話の時間
- 例と同じ内容。（電話連絡時間に悩む・複数職種への連絡と再度フィードバックするのに手間と時間を費やしている等）
- 情報を提供してもリアクションがいただけない。
- 欲しい情報は職種によって違うと思うし、同じ情報を送っても同じレベルで受け取ってくださるとは限らない。電話での連絡は記録に残りにくいですが、書面では伝えられないこともあり、どちらが良いのか迷う。
- 現在、主に電話連絡がほとんどだが、誰にどこまで伝えれば良いのか戸惑うことがある。
- FAXのやり取りだと点と点の共有になり、線や面として共有できないため。
- 複数の事業所が入っている利用者様の場合、上記の例にある様な困難さがある。
- 今のところ、情報を発信していただいている立場にいる事が多いため、可能な限り早めに返事をするように心がけてはいる。
- 訪問系のサービス事業所との連絡が取りづらく、不便を感じる。
- 情報が伝達されるのが遅い。
- 急なご利用ご希望時に、状況確認が早く出来る感じがする。
- 情報共有のための作業に時間がかかる。伝わったどうかも確認が取れない。
- （例と同じ）電話連絡をしようと思うが何時にかけると都合が良いかわからない。現在はTEL・FAX・一部メールにて情報共有。
- 例のように手間と時間がかかる。（複数の職種への連絡と集まった情報を再度フィードバックすること）
- 電話やFAXでは、微妙なニュアンスが伝わらず、誤解を生むことがあり、連絡する時に気を遣います。（現在は、電話・FAX・担当者会議・各事業所の活動中に訪問して情報共有している。）
- FAXを送り、情報提供していても、現場の方に情報が届くのにタイムラグがある。Drと連携をとっているのに敷居が高いと感じてしまう。
- 複数の関係機関が出席して頂ける時間を調整するなど大変であることがあります。
- 担当者が繋がらなかつたり、行き違いなどあり時間がかかる。（電話） 文章では伝えにくいこともある。小さなことは報告しにくい。（FAX）
- まず、担当職種との連絡がタイムリーに取れず、時間がかかってしまう。さらに情報共有の為の発信の手間がある。
- 例にある、複数の職種に一齐に同じ内容の情報を発信し、それぞれからのフィールドを再度、複数の職種に情報発信するのにかなり手間と時間を費やしている。
- 需要と供給
- 話が何人か通すことにより、途中で変更したり、当初のニュアンスが伝わらない。
- 電話も訪問に行かれていることが多く、FAXにても早急なお返事がいただきたい時、どのようにしたら良いかわからない。
- 先方の都合の良い時間がわからず連絡がとりにくい。
- 早く連絡を取って確認したくても、担当者が外出・不在などで、すぐに確認できないことがある。
- 電子カルテなので、FAXで届く大量の情報をどうカルテに反映すれば効率的で有効か？FAXで返信した場合も。
- 多忙な人達にどれだけ情報提供すればいいのか迷ってしまう。
- 医師への連絡に敷居の高さを感じることもある。
- 複数の職種に情報発信するのに手間がかかる。
- 「何が必要か？」「何をしたいか」の説明よりも、ご本人様の病気や状態に関する連絡が多い。ぎりぎりになってからの相談が多い。
- HPへ受診したかだけでも確認したいが、HPは個人情報なので教えられない場合がある。

- 薬が変更したこと、プランが変更になったことなど、タイムリーな情報共有は全職種で行えていない等。
- 複数の職種と同じ情報を共有できるという。
- 電話での連絡が多いので、どこまで伝えたか、聞いたかが分からなくなる。相談時、病棟に退院支援の相談員がいたり、医療連携室を通す必要があるところもあり、病院によって対応する人が様々。どこに相談すればいいかわからない。
- 正確な情報を必要な部門に伝えること。個人情報の問題で、得ることのできない情報がある。
- FAXで情報共有するため、情報を送るが、一向に返信がなく、伝わっているか不安。 事務所全員が外に出ている様で、留守録になる。急いで伝えたい時は困る。
- 主治医の先生が地域のクリニックの場合、診療時間内の連絡が良いのか、時間外が良いのか、ご迷惑にならない方法を考えてしまう。訪問事業所・通所事業所が他のサービスについて、どんな情報が必要か知りたい。
- 本人の状態を複数での共有の場合、すべてに共有できるもの、できないものがあり、選別が難しい。
- Drが絶対で・・・
- 書面での情報共有が多いので、整理が大変だと感じる事がある。
- 誰が誰に連絡するのかはっきりしていないので、後から判明することが多い。
- 一歩通行になりがちで、方向がすぐに決まらない。
- 電話の時間タイミングが悪いとカンファレンスの日程調整がとりにくい。
- そもそもどういった職種の方がどういったことに対応できるのかをお互いに理解できていない。
- 電話連絡をしようと思うが、何時にかけると都合が良いのかわからない。
- 先生の場合はいつごろ都合良いかわからない。FAXで連絡していいかわからない。
- 訪問診療や通院時の状況がわかりづらい。独居の方、高齢者世帯など状態がわかりづらい。通所リハビリ（通所介護）での状態…ケアマネを通してだったり、連絡帳をつかうので時間がかかる。
- 歯科治療のために全身状態が知りたい
- 電話で話すことが細かく内容確認出来ると思うが、相手の事や様々な状況を考えると難しく、FAXになってしまい、文章にするとまた困難なことが多い。
- 伝達事項の不確実性、意識のズレによるこじれ。
- 利用者様の状態等、関係職種それぞれにFAXするのに時間の無駄を感じます。
- 医師（主治医）への相談。
- 他サービスが入っていると、介入方法や目的が統一しにくい。

④ 感じないを選択された方へ：現在、どのような情報共有の方法を取っているか教えてください。

- はち丸ネットワーク
- 実際そんなに不満とかないけど、もっと情報を得るのにスムーズになればと思う。
- 直接電話する。繋がらない時はFAXする。
- カルテの閲覧、メールでの情報伝達・共有
- FAX等
- 施設内には多職種は居ない。施設外の多職種はほぼ同法人内なので、電子カルテで繋がっている。その他、多職種と関わるのは入所時がほとんど。情報提供書で行っており、今まで問題はない。
- FAXにて連絡

- 施設入所・短期入所の事業所であり、他事業所とのやり取りが多くはないため、必要なことを直接事業所とやり取りしたり、ケアマネさんを通じて情報共有して頂くことで、今のところ困難に感じていない。
- FAXが主
- TELとFAXとはち丸ネットワーク

設問 2. 名古屋市医師会が多職種間の情報共有ツールとして“はち丸ネットワーク”（インターネットを活用して情報共有するシステム）を運用しておりますが、利用したことはありますか？該当する選択肢に○印を付けてください。

◆ 是非、理由を教えてください。①を選択した方は、利用してみたの利点・欠点を教えてください。

選択肢： 利用している

- 全ての職種の方が利用しているわけではないのが欠点。Drと共有できるのが利点。
- 利用しているが、多職種が利用してなくて広まっていないので、意味がないと感じる。
- 二重記載が手間。完璧にコピーしてはいない。申請に手間がかかる。書類が多すぎる。
- 利用しているが、現時点では二重記録となっており、利用者に関わる全ての事業所が利用していないため、FAXでの連絡が主となっている。はち丸を多職種でどのように活用していくか、進めていくかを話し合う機会がないため、未記入の項目も多く、進め方がわからない。
- 使いにくい。導入のハードルが高い。もっと簡単にログインしたい。使う人の年齢層を考えて欲しい。
- はち丸をインストールしてあるPCでしかみられないので、外出中、訪問中、外来中、休日や夜間に困る。タブレットでみられればよいと思う。インストールしてあるタブレットを貸し出すサービスはどうでしょう。法人内の電子カルテシステムと独立しているので、入力が二度手間になる。コピーするにもUSBなどのメディアを介さないといけないのが最大の不便。
- 当ステーションの問題かもしれないが、とにかく動きが遅い。システムを開くまでにセキュリティなど手間がかかる。
- 利点：各職種がそこに書き込む事で、皆が情報を得ることができる。
欠点：訪問・記録の他に、はち丸に入力をしなくてははいけない。タブレットではないので、事務所に帰らないと入力できない。
- 利点：多職種へ発信できる。 欠点：手間がかかる。（入力・登録等）

選択肢： 登録はしているが、利用していない

- 主治医意見書を充実させ、既往も含め、一つの書類で使用可能として欲しい。新たに書類を立てるのは困難。
- だいぶ楽になりましたが、手順が手間。
- 使ったことがないので、これを機にやってみようと思います。
- どこまでの内容を他職種が必要としているのか？迷う。ネットワークに繋げる作業に多少の手間を感じる。FAXによる共有が簡易である。利用者数が少ない。
- 事業所としては登録済みだが、利用しておらず、個人の設定はしていない。外部のメールが使用できるパソコンが事業所内に1台しかない。（9名分のパソコンあるが・・・）自分が使用するパソコンで利用できないため、活用の困難さを感じる。
- 主治医が登録していない。
- 全ての事業所が入っているわけではない。当事業所の問題であるが、外部へ繋がるパソコンが1台。

- FAXでのやり取りしか行っていないため。
- 連携事業所が登録できないと言われたことと、セキュリティ上、積極的に利用ができない。
- 自分のパソコンで利用できる状態になっていないため、使いにくい。
- セキュリティ上の問題。（同回答4件）
- セキュリティ上の問題で稼働できていない。
- セキュリティ上利用できない。
- セキュリティの都合で環境が整っていないからと聞いている。
- セキュリティ上の問題があり、利用できていない。
- システム上の問題。
- セキュリティ上の問題あり。移動できないため。
- セキュリティの問題でまだ稼働していない。
- 今回、来年度予算での補助を市医師会が受け、専用回線を無料で引く準備をしているが、来年度以降のランニングコスト回収が課題。
- 当事業所のセキュリティ上の問題ではち丸ネットワーク接続に時間がかかる。

選択肢： 知っているが登録していない

- 高齢の為
- 登録を検討中
- 在宅医療を行っている。
- パソコンに詳しくないため。
- 利用したいが、医師等含めネットワーク参加していない。利用までの手続きが大変そうに思われる。情報共有を行う頻度がツールを使うほどは多くないため。
- とても興味はあり、登録したいと思っている。忘れていただけ。
- 会社として導入予定なし。
- 該当者が少ない。(訪問診療を利用している利用者が少ない)連携相手となる事業者を利用を促すのはケアマネなのか？このシステムを主動する人が誰なのか分からない。
- 対応事業所ではないため。
- 活用例をもっと知りたい。
- 在宅をやっていないため。
- 登録できる職種なのかさえ知識がない。
- 該当する事例がなかった。法人内でインターネットの環境が制限されているので、実際には使いづらいと思う。
- 施設として、在宅サービスご利用者の情報をインターネットで共有する事に躊躇してしまうから。
- 現段階では、二度手間な印象。
- 情報内容が不明確。
- 今のところ使うことがない。(対象者がみえない) 市外のツールは対象者様もみえ、利用しています。
- 今のところは、特に必要な場面が無いため。
- 連携が必要な事例がない。他の職種が利用している様子がない。
- 関わっている医師・事業者がどの程度利用しているのかわからない。(以前、利用者家族として利用希望を伝えたが、実質運用していないと言われた。)

- 研修に参加し、大まかな流れなど理解できたが、活用するまでには至っていない。
- 情報共有において困難さを感じることはあるが、頻回にあるわけではないので、その都度対応しており、登録するに至っていない。
- 利用するためのネット環境が不十分。
- 利用したらとても便利だと思うが、会社からの許可がおりていないため、おりたら是非利用しようと思います。
- 前の職場で登録していたが、利用に至っていなかった。
- 提携先のDrが活用していなく、緊急性を要していないため。
- まだ必要と感じていない。各ソフトとの連動性がなく、手間になってしまう。
- インターネットが得意ではない。

選択肢： 知らない

- 今までSNSを知っている先生、リハ、管理栄養士との活用。介護職とはとはその場でまたは担当者会議で話をする。ノートに書き込むこともある。
- 医師会との交流を南区は特に取らない。役員の考え方だと思うので、会員としてはどうしようもない。
- 3か月前に他市より異動してきたばかりのため。

設問3. 近年、医療・介護現場でも情報管理について、ICTツールの活用が推進されていますが、現在、必要性を感じていますか？

該当する選択肢に○印を付けてください。

◆ 是非、理由を教えてください。

選択肢： 非常に感じる

- 情報量が一人一人の患者で多くなっているし、検索等が大変なので、紙ベースでは難しいから。
- 連絡する時間を考えなくて良い。
- 足りないところをどのように他職種がカバーしていくか。また、介護職に最適な介護を伝えるツールとして利用できると思います。
- 便利なものは取り入れたい。
- 各事業所で行っていると、用紙の作成に時間もかかり、書式もバラバラで使いにくい。また、紙ベースだと情報が整理しづらい。ICT統一の物ができると、情報共有の面だけではなく、色々と連携しやすいのでは。
- 非常に感じるが、利用者に関わる全ての方が活用して初めて有効なものだと思う。
- 電話やFAXでは遅く不便だから。
- 担当者会議を照会だけでなくTV電話で行うことができれば、別の予定が入って、往復の時間が確保できなくても短時間であれば参加できる。
- 各職種間のデータに関係者が一斉にアクセス出来れば、情報伝達のミスが減り、かかる時間、マンパワーの削減に繋がる。
- 全職種が同じ情報を共有できる可能性があるから。
- 必要な情報が、いつでもどこでも見られる。

選択肢： 感じる

- 情報が速い。
- 将来、自分の為になるため。
- ICTは今後、幅広く利用されてゆくと考えるから。
- 共有できるデータ量が多い。困難ケースなどの場合、関係者が方向性を共有でき、支援がぶれない。データ管理がしやすい。共有にかかる時間を短縮できる。
- 情報の共有が速い。離れた場所でも同じタイミングで最新情報を知ることができる。
- 徘徊が心配される方については、位置がわかるGPS付きの携帯により、発見がはやかったので助かりました。
- セキュリティ部分の重要性があると考えます。
- 業務を効率化したいため。
- 在宅を今後やっていく予定があるため。
- 多職種が情報共有をしっかりと出来る。
- パソコン上で情報共有でき、確認もしやすいので良いと思うが、タイムリーに行っていこうと思うと負担に感じることもある。
- スマホ・タブレットでリアルタイムで記録・連絡できる。（同時発生の文書処理が多い。CMは）
- 情報管理・業務効率化の為に、必要なツールだと思う。
- 効率は良くなると思います。
- 知りたい情報をすぐに検索し、理解しやすい。最新情報を得るためのツール
- 情報共有に欠かせないツールであると考えてはいます。連携がスムーズに。（よく言われるケアマネから医師の敷居の高さが解消されると思います。）
- 孤立していて、HPだけが本人とつながっている方の安否確認がしたい場合。
- 入退院などの時があるとスムーズと思います。
- 退院時の情報などが詳しくわかると連携等に役立つと思う。
- 在宅の利用サービス、通院状況、入院された病名・日時を速やかに知ることで、利用者様の介護・医療連携して支援することができる。
- ただ、いかにツールを用意したとしても病院だけでなくクリニック・診療上のDrの協力が不可欠。
- 短時間で情報共有する必要性があると思う（時間があけばケアの質をあげることもできるのでは）。LINEぐらい手軽に情報共有ができるといい。処置方法を多職種に（動画、写真）で送れたら、わざわざ同行しなくてよい。
- ICTの活用により情報共有がスムーズになり、事務作業の時間が減ると良いと思います。市内の入カソフトが1つになって、そこに打ち込むだけになってほしいです。

選択肢： やや感じる

- 他院、通院中というわりに、自分の飲んでいる薬もわからない人多いし・・・
- 医療・介護の連携がさかんに言われております。一斉送信で済む内容もあると思い、活用できればと思います。
- 患者本人の申告内容だけでは不明な点があるので。
- 全ては難しい気がするが・・・
- TELやFAXで1つ1つやり取りするより、1つのツールで関係各所の意思統一や現状を確認できると良い。
- 全ての利用者に必ず必要とは思わないが、事業所とのやり取りが多くなるようなケースは利用できたらと思う。（しかし、他事業所の活用がされなければ全く意味

がないので、手間に感じるかもしれない。)

- サービス事業所間等の情報共有が容易でないから。
- 良：確実に連絡が取れるため。 悪：顔の見える関係性が減るのでは。
- 急な時に必要性を感じる。
- 方法をマスターする、慣れるのに時間がかかりそう。関係者全てが慣れてしまえば便利だと思う。
- 一度に複数の機関が情報を閲覧できるのではないかと思います。
- タイムリーな情報交換が必要と感じるため。
- 医療と介護は在宅という現場において、密接にかかわっており、無理なく必要な情報を得られる仕組み作りが必要。
- ペーパーレスになると、魅力を感じる。
- 利用者様本人にご病状をうかがっても、なぜその症状になるのか不明な事もあるため。
- 必要な情報であるが、個人情報の取り扱いに注意がいると思う。
- 常に利用者様の身体状況がわかるという利点があるので、必要性はあると思います。

選択肢： 感じない

- やるなら全事業所が足並みを揃えて行わないと、情報が散在しそうに思います。

選択肢： どちらとも言えない

- うまく活用できていないので不透明（どちらとも言えない）
- 常時、現場に機器を置いていない。相手の顔（声）がわからず微妙なニュアンスがわかりにくい。
- 情報を共有し、目で見るとはいいとは思いますが、使いこなせるか不安がある。
- 内容をまだ理解していないため。
- リアルタイムに繋がれるシステムがあれば活用していきたい。
- 全ての人がICTツールを使用していないため。
- ツールを使いこなすまでいかないので、力量の差が大きく出ている。
- あれば便利だと思うが、事務所の特定のパソコンが現在繋がっていないため、使いにくい。タブレット等持ち歩けるものであればリアルタイムな情報発信が可能。
- 共通の情報を集められるため便利だが、FAXでも何とかなっている。
- 何のための情報共有かが明確にされていない。何となく大切であることは誰もが認めますが、医療・介護とそれぞれ異なる目的をもた分野の従事者が情報を共有するには、共通した目標をもつことが前提。その前提があいまいになっているので、ICTツールの活用ばかり訴えても効果的でないと思う。
- ICTツールを使った際に、それぞれの現場の方に、より多くの負担が発生しやしないかという不安はあります。
- 利用できていないのでわからない。
- 感じるがみんなが活用できるレベルのICTでないと運用は難しいかも。
- 便利かつ手間がかからないツールであればいいと感じる。
- 全事業所が利用しなければ意味なし。担当しているスタッフが利用できていない。（ヘルパー、デイetc）
- 人間が関わる以上、ミスは起こる。それを極力減らすシステムであれば、有用性ある。
- ICTをあまり活用していない。最初の一步がふみこみにくい。一步踏み込めば走れるようになれるとは思ってます。

選択肢： 無回答

- ICTツールを知らないため選択せず。
- 積極的治療が必要かどうか？特に蘇生に関して（寝たきり、食事できない、認知症進行等）の情報がある。
- ICTがわかりません。
- インターネットの利用が皆できるわけではない。活用する技術も備わっていない。

設問4. 医療・介護現場におけるICTの活用について、研修で聞きたい事、知りたい事があれば教えてください。

- はち丸ネットワークを使用して便利と思ってる方々の意見。
- 普及促進のわりに具体的な方法や方向性がわからない。使用方法について全職種の共通理解があるのか？
- ICTの活用ですが、簡単にできると良いですが、繋がるまでに何度もキーボードをたたくのはどうかと思います。
- コストの面で気になる。介護職の高齢化によるツール使用の簡便性も課題になるので対応策も気になります。
- 小児の在宅医療でも活用できるのかを知りたいです。
- 使い方を知りたい。
- 実際の使い方を教えて欲しい。
- うまく活用されている実例
- 費用等は、もちろん各事業所の負担となるのですか？
- おもいやりケアシステムについて、詳しく知りたいです。
- 今のところ、実際に使う機会がないので、よくわからない。
- ICTを使うことのリスク（情報の氾らんなど）
- アプリのような物で、現場で情報が共有できれば話が速いと思います。法的な問題があるから難しいですか？
- 個人情報保護の対策がどうなっているのか、どうすることが良いのか知りたい。
- 実際の事例に基づいたICTの活用のメリット・デメリット
- 普及するために協力したいです。そのために協力できることはなんですか？
- 使いたくなるような、自然に普及するシステムを作ってほしい。
- 利便性とセキュリティ面の両立は可能か。
- はち丸ネットワークの利用例の紹介。実際をみて実感したい。
- タブレット等リアルタイムな情報発信が可能 → 誰が準備する？個人？施設？個人情報の保護は大丈夫か？
- はち丸ネットワークが広まらないのはなぜか。
- 検索の仕方にて知りたい情報が全く違ってしまう。ワードの使い方が難しい。
- 実際に有効活用されている具体的事例
- 実際にどのように活用され、どのような情報が誰と共有しているか教えて頂きたいです。
- ICTの情報管理の内容を詳しく知りたいです。
- ICTツールを使っているステーションの話を知りたい。
- やはり、実演でしょうか？

多職種間での情報共有に関するアンケート

1、現在、多職種間での情報共有において困難さを感じることはありますか？該当する選択肢に○印を付けてください。

- ① 非常に感じる ② 感じる ③ やや感じる ④ 感じない

①②③を選択された方へ：特にどんな場面で困難さを感じるか教えてください。

例・電話連絡をしようと思うが何時にかけると都合が良いのかわからない・・・。

- ・複数の職種に一斉に同じ内容の情報を発信し、それぞれからのフィードバックを再度、複数の職種に情報発信するのかなり手間と時間を費やしている・・・等々、皆さんが特に困っている場面を教えてください。

()

④を選択された方へ：現在、どのような情報共有の方法を取っているか教えてください。

()

2、名古屋市医師会が多職種間の情報共有ツールとして“はち丸ネットワーク”（インターネットを活用して情報共有するシステム）を運用しておりますが、利用したことがありますか？該当する選択肢に○印を付けてください。

- ① 利用している ② 登録はしているが、利用していない
③ 知っているが登録していない ④ 知らない

◆ 是非、理由を教えてください。①を選択した方は、利用してみたの利点・欠点を教えてください。

()

3、近年、医療・介護現場でも情報管理について、ICT ツールの活用が推進されていますが、現在、必要性を感じていますか？該当する選択肢に○印を付けてください。

- ① 非常に感じる ② 感じる ③ やや感じる ④ 感じない ⑤ どちらとも言えない

◆ 是非、理由を教えてください。

()

4、医療・介護現場における ICT の活用について、研修で聞きたい事、知りたい事があれば教えてください。

()

返信 FAX : 0 5 2 - 8 2 3 - 0 8 7 6

* 8 月 25 日 (金) までにご返信ください。

◇ご協力感謝いたします◇